

地元文化発掘こそ 地域活性化の原点

小国芸術村 季刊誌を創刊

遠く忘れ去られていた地元
の文化を再発掘し、地域の活
性を図ろうと、刈羽小国町
の小国芸術村と芸術村現地友
の会（山崎正治会長）は十五
日、地域文化誌「へんなか」の創刊
号「写真」を発刊した。

「へんなか」は、いろいろを
意味する小国の方言で、かつ
ては生活の中心であり、人々
のコミュニケーションの場だ
った。芸術村の活動に刺激さ
れた友の会のメンバーは、長
い伝統を持った有形・無形の
文化の掘り起こしを地域づ

くりの原点を再認識。町内外
の人々が交流を深めた「へん
なか」を再びという願いを込
め、芸術村のメンバーと協力
しながら取材や、編集作業を
進めてきた。

創刊号は技法が園の重要無
形文化財に指定されている小
国和紙の特集。原料のユウソ
ン蒸しから紙干しまでの一連の
作業風景をはじめ、地元の人
々による紙すきの思い出や、
具紙すき職人の座談会などを
掲載。厳しい年貢を少しでも
補うために生まれたという小
国和紙の移り変わりや村の生
活、和紙にまつわる随想や小
説などもあり、三百年以上も
続いているとされる伝統文化
を垣間見ることが出来る。



A5判、七十六ページで、価格
は六百円。発行部数は二千冊
の予定で、店頭販売のほか、
芸術村現地友の会事務局02
58(95)2340でも申し
込みを受け付ける。

今後は八月に浜海川を特集
した二号、十二月に三号と季
刊発行をしていく予定。

昭和63年4月16日付 新潟日報



「へんなか」終刊号 平成10年

「へんなか」
1号～21号合同本



「へんなか」表紙各種